

國學院大學北海道短期大学部紀要 第35卷

平成30年(2018)3月、抜刷

教員・保育士養成課程における初心者への ピアノ実技指導の一考察

—歌唱共通教材・子どもの歌の弾き歌いについて—

A Consideration on Practical Piano Skill Instruction for Beginners
in Elementary and Nursery School Teacher Training Courses
—Focusing on Children Singing General Teaching Material Songs Accompanied by the Teacher on Piano—

穴 澤 彩 佳・松 田 由理子・寺 田 有 希

Sayaka ANAZAWA, Yuriko MATSUDA, Yuki TERADA

教員・保育士養成課程における初心者への ピアノ実技指導の一考察

—歌唱共通教材・子どもの歌の弾き歌いについて—

A Consideration on Practical Piano Skill Instruction for Beginners
in Elementary and Nursery School Teacher Training Courses
—Focusing on Children Singing General Teaching Material Songs Accompanied by the Teacher on Piano—

穴 澤 彩 佳・松 田 由理子・寺 田 有 希
Sayaka ANAZAWA, Yuriko MATSUDA, Yuki TERADA

I. はじめに

音楽が持つ力を多くの人は感じていることと思う。音楽を聴くことによって多くの人は感動や共感をおぼえたり、時には人々の行動や思考にさえ影響を与えたりすることがある。

このような音楽の持つ力は、教育の場においても期待されることとなり、現に、明治5年(1872年)の学制発布により設置された小学校において歌唱教育が導入され、明治15年(1882年)には「小学校唱歌集」初編が発行され、引き続き翌年には第2集、翌翌年には第3集が発行され、今日まで伝わる多くの小学校唱歌が作曲されたところである。

現在においても幼児教育や小学校教育においては、子供たちの情操に好影響を与えたり、あるいは新たな興味・関心を引き起こしたりと、音楽の持つ力の発揮は期待されているとあっていいであろう。しかしながら、指導する側が音楽の持つ力を十分に発揮させるためにはある程度の技能・能力がなければならないのはいうまでもない。

現状においても、小学校教員免許、幼稚園教諭免許、保育士資格取得においてピアノ実技は、重要な位置を占めている。本校の所在地である北海道や札幌市での小学校教員採用試験では音楽実技検査が課され、小学校、特別支援学校小学部では「ピアノ演奏」でバイエルピアノ教則本72番から106番(ただし、86番及び87番を除く)までの中から1曲を自由に選択・演奏すること、そして「ピアノ伴奏付き歌唱」では、文部科学省学習指導要領歌唱共通教材から課題曲が与えられ、主旋律の楽譜を見ながら簡単な伴奏を付けて歌う演奏が求められている。また、幼稚園教諭、保育士にとっては日々の保育の中で行われる音楽活動に重要不可欠であることから、多くの幼稚園、保育所の採用試験ではピアノの実技試験が課されているところである。

このような状況下ではあるが、小学校及び幼稚園教諭並びに保育士の養成校である本校においては、入学試験科目としてピアノ実技を課しておらず、入学生のピアノ演奏レベルは様々であり、全くの初心者かそれに近い学生が多いと言わざるを得ない状況が続いている。従って、楽譜の読み方を十分に理解していない多くの学生に対し、教育や保育の現場から求められているピアノ演奏レベルにまで到達させることは、かなり難しい状況にあると言わざるを得ない。特に、現状カリキュラム内ではそこまでのレベルに学生を到達させるのは容易ではない。というのもピアノ演奏（音楽演奏全般）もそうであるが、一日や二日の練習で弾けるようになるものではなく、多くの時間をかけての練習の積み重ねを経て少しずつ上達していくものであり、求められるレベルまで到達するのにはある程度の時間数が必要なことなのである。しかし、その時間数をカリキュラム上に確保することは、他の講義科目の時間数との関係で困難であり、特にこのような状況での初心者への指導は、ピアノ授業の特性上問題点が多い。

そこで本稿では、本学科における「ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ」「保育表現技術BⅠ（音楽a）」の2012年（平成24年）～2016年（平成28年）の教育実践をまとめ、分析することで本講義の今後の問題点を探ることとしたものである。

Ⅱ. グループ分け

前期1回目の授業において、ピアノ指導を受けたかの有無と音楽の基礎知識の理解度レベルにより学生をグループ分けし、より自分のレベルに合った環境で指導を受けられるようにする。また、グループ分けをすることにより、同レベルの学生がグループ化され授業の効率化が見込まれる。

各グループは、初回授業時でのアンケート（資料1）の回答により振り分ける。ピアノの指導を受けたことがなく、音符はわからない或いは少しわかる、ピアノは弾けないと回答した学生を初級とした。音符は少しわかる、ピアノは右手で弾ける或いは両手で弾けると回答した学生を中級とし、音符がわかりピアノを両手で弾け、尚且つピアノの指導を受けたことがある学生を上級とした。

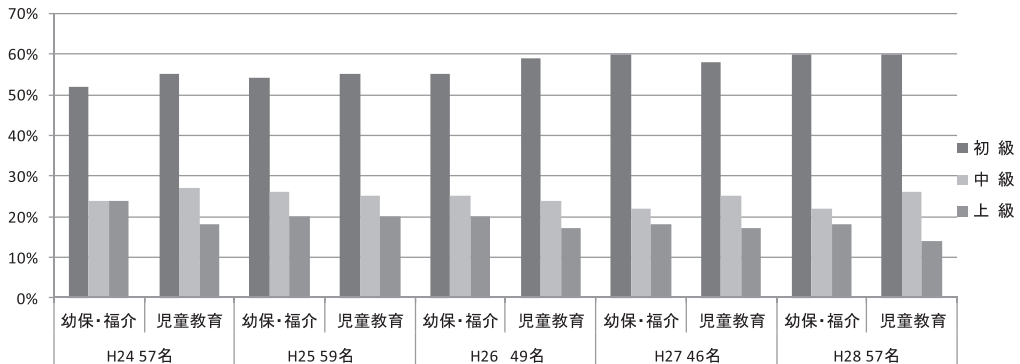
各年度によりグループ毎の人数調整が必要な場合は個人面談を実施し、中学校・高等学校での音楽系部活動など、より詳細に音楽経験レベルをチェックして、概ね上記のような基準でグループ分けをした。しかしながらグループ分け後、授業においてピアノを弾かせた結果、ピアノ経験や音楽理論の理解度を正確に回答していない僅かな学生を他グループへ移動させなくてはならない状況が毎年続いている。

資料1 グループ分けアンケート

平成 年度幼児・児童教育学科 幼保・児童コース1年 番		
ふりがな 名 前		出身高校名
①ピアノの指導を受けたことがありますか ☐ある ☐ない ②あると答えた人は次の質問に答えてください 指導を受けた期間 弾いた教則本 曲名 ③ないと答えた人は次の質問に答えてください 音符はわかりますか ☐わかる ☐少しわかる ☐わからない 自己流でピアノが弾けますか ☐右手で弾ける ☐両手で弾ける ☐弾けない ④中学校、高校の部活動で吹奏楽あるいは合唱に入部していた人は書いてください ⑤趣味で音楽活動をしている人は詳しく書いてください		

資料1のアンケートの結果、平成24年度以降の各クラスの人数比の推移は表1の通りである。初級グループは、平成24年度幼児保育コース52%児童教育コース55%から徐々に増加し、平成28年度においては幼児保育コース60%児童教育コース60%に達している。一方上級グループは、平成24年度幼児保育コース24%児童教育コース18%から平成28年度幼児保育コース18%児童教育コース14%に減少している。圧倒的に初級グループの人数が増加し、逆に上級グループが減少してきている。又、中級グループにおいては、平成24年度幼児保育コース24%児童教育コース27%・平成25年度幼児保育コース26%児童教育コース25%・平成26年度幼児保育コース25%児童教育コース24%・平成27年度幼児保育コース22%児童教育コース25%・平成28年度幼児保育コース22%児童教育コース26%の推移である。中級グループの人数比が各年度において増加しているように見受けられるが、授業の指導体制の事情から初級グループが多数な場合に、僅かでも音楽経験がある学生を中級グループに移動させて指導している結果である。

表1 保育表現技術BⅠ（音楽a）/平成24年25年 26年
ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ/平成27年、28年 クラス分け推移



なお、初級グループには別途、前期授業開始時、前期授業終了時、後期授業終了時の3回、資料2を配布し、それぞれの期間で音楽の基礎知識をどこまで理解できているかをより詳しく調査する。

各項目の習得は表2・表3の人数で表されている。前期終了時において初めてピアノを弾くために必要である項目①ピアノ基本の姿勢80%～100%・②手の形64%～91%・③指番号64%～82%・④音階と鍵盤の関係47%～63%、又、基礎的な音楽理論としての項目⑤五線譜80%～100%・⑥ト音記号64%～91%・⑦ヘ音記号22%～44%・⑧音符50%～73%・⑨休符22%～50%・⑩階名（ト音記号22%～40%）であり、後期終了時においては①100%・②、③、⑥90%～100%・④70%～100%・⑤91%～100%・⑦45%～67%・⑧56%～88%・⑨44%～56%・⑩38%～50%の習得結果となった。但し平成27年度・平成28年度児童教育コースは、カリキュラム改定により半期（必修）授業開講に変更となったため前期終了時のみの習得結果である。①～③・⑤・⑥に関しては78%～90%の学生が習得し、④・⑧の項目は56%～61%の習得結果であるが、⑦28%～40%・⑨40%～44%・⑩39%～40%に関しては約半数以上の学生が習得できていない。児童教育コースにおいては1年前期「音楽の基礎Ⅰ」、幼児保育コースにおいて1年各半期「音楽の基礎Ⅰ・Ⅱ」（旧音楽Ⅰ・保育表現技術AⅠ）を開講して音楽理論の基礎を指導しているが、初心者においては幼児保育コース「ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ」・児童教育コース「ピアノ実技Ⅰ」の授業での活用にまで至っていないのが明らかである。

資料2 初級グループ音楽の基礎の理解度アンケート

初級グループ 音楽の基礎・基本理解度アンケート		前期開始	前期終了	後期終了
幼児・児童教育学科1年幼保・福介コース/児童教育コース		番 名 前		
①～⑪の質問に教えてください				
①姿勢	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
②手の形	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
③指番号	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
④音階と鍵盤 の関係	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
⑤五線譜	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
⑥ト音記号	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
⑦ヘ音記号	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
⑧音符について	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
わかる音符がある場合は()の中に記入してください。				
全音符 ()	2分音符 ()	4分音符 ()		
8分音符 ()	16分音符 ()			
⑨休符について	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	
わかる休符がある場合は()の中に記入してください。				
全休符 ()	2分休符 ()	4分休符 ()		
8分休符 ()	16分休符 ()			
⑩階名(ト音記号)	☐ わかる	☐ 少しわかる	☐ わからない	

表2 児童教育コース 保育表現技術(音楽a)(必修・通年)

ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ(必修・半期)における初級グループ

音楽理論基礎・ピアノ奏法基本の理解度結果人数

年度/受講学生数	平成24年6名			平成25年10名			平成26年16名			平成27年10名		平成28年18名	
開講期間	前期 開始	前期 終了	後期 終了	前期 開始	前期 終了	後期 終了	前期 開始	前期 終了	後期 終了	前期 開始	前期 終了	前期 開始	前期 終了
①姿勢	0	6	6	0	10	10	0	14	16	0	9	0	15
②手の形	0	4	5	0	8	9	0	14	16	0	9	0	16
③指番号	0	5	6	0	7	9	0	13	15	0	8	0	14
④音階と鍵盤の関係	0	3	4	0	4	6	0	8	10	0	8	0	11
⑤五線譜	0	6	6	0	10	10	3	15	16	0	9	0	16
⑥ト音記号	2	5	6	1	9	10	3	14	15	2	10	1	14
⑦ヘ音記号	0	2	4	0	4	5	0	7	8	0	4	0	5
⑧音符	1	4	5	1	6	7	1	8	9	0	7	0	10
⑨休符	0	2	3	0	4	5	0	8	9	0	4	0	8
⑩階名(ト音記号)	1	2	3	1	4	5	1	5	6	1	4	1	7

表 3 幼児保育・福祉介護コース、保育表現技術BⅠ（音楽a）（必修・通年）
ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ（必修・各半期）初級グループ

年度/受講学生数	平成24年24名			平成25年17名			平成26年11名			平成27年9名			平成28年10名		
開講期間	前期 開始	前期 終了	後期 終了	前期 開始	前期 終了	後期 終了	前期 開始	前期 終了	後期 終了	前期 開始	前期 終了	後期 終了	前期 開始	前期 終了	後期 終了
①姿勢	0	23	24	0	17	17	0	9	11	0	8	9	0	8	10
②手の形	0	20	22	0	15	17	0	10	11	0	7	9	0	7	9
③指番号	0	18	24	0	14	16	0	8	10	0	7	9	0	7	9
④音階と鍵盤の関係	0	15	20	0	8	13	0	6	8	0	5	7	0	5	7
⑤五線譜	0	24	24	0	15	16	0	9	10	0	9	9	0	8	10
⑥ト音記号	5	20	22	2	14	17	1	9	11	1	7	9	2	8	9
⑦ヘ音記号	0	11	12	0	5	8	0	3	5	0	2	4	0	4	5
⑧音符	1	16	21	1	12	14	1	8	8	0	5	6	0	6	8
⑨休符	0	8	12	0	5	8	0	3	5	0	2	4	0	4	5
⑩階名（ト音記号）	2	7	12	1	4	7	1	3	5	1	2	4	1	3	5

Ⅲ．初級グループへの指導

教員は指導記録表（資料3）に担当学生個々の指導点や課題を授業毎に記録し、次回授業での指導に使用する。また、学生全員にも初回授業時に受講記録表（資料4）を配布し、授業時に受けた指導の内容や次回までの課題を書き込むよう促し、自主性を持って課題に取り組んでいけるようサポートをする。

資料3 指導記録表

平成 年度ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ指導記録			
幼児・児童教育学科		コース1年	番名前
回数	月	日	指 導 内 容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
最終評価 担当教員			

資料4 受講記録表

平成 年度ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ受講記録			
幼児・児童教育学科		コース1年	番名前
回数	月	日	受 講 内 容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
担当教員名			

1. バイエルピアノ教則本

初級グループの指導は、標準バイエルピアノ教則本（これ以降バイエルと表記）を教材として使用し、学生夫々に1点ハの鍵盤の位置と楽譜の関係からト音記号の読み方へと進めていく。バイエル全てを履修期間内に弾くことは難しいため、教員が課題を選曲し与え、学生

自身がその課題を達成したところで申告し、教員がチェックすることとした。課題の未達成部分があればその場で指導をする。また、疑問が生じた場合にはすぐに質問するよう促し、授業内で疑問を解決し、速やかに個人練習を再開できるよう留意する。

なお、バイエルを教材とするのは、前に述べた通り、教員採用試験や幼稚園・保育所の採用試験として出題されることが多いということに加え、弾き歌いをするうえでも基礎となるピアノ演奏技術の習得が見込まれるからである。

また、児童教育コースは、必修期間である半期の間に、教員採用試験での出題の最低ラインであるバイエル72番まで到達することを目標とする。ただし、人数は減少するものの後期選択科目「ピアノ実技Ⅱ」を受講する初級グループの学生はバイエル100番への到達を目標とする（資料5）。

資料5 バイエル教則本課題曲及び習得期間 初級グループ

・前期

授業回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
バイエル 課題番号	右手 左手	両手 3・4・5 6・7	8 9	12 13	17 18 19	21 25	29 31	46 48	59	59	62	62 66	66 72	72	72

・後期

授業回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
バイエル 課題番号	74	74 78	78 80	78 80 82	82 88	88	96	96	98	98	98	100	100	100	100

2. 弾き歌い

弾き歌いの習得目標曲は、表4に示している。

児童教育コースにおいては、小学校学習指導要領で指定されている歌唱共通教材である。表4-a-①の網掛けの曲は、例年北海道教員採用試験での出題が多い曲である。他4曲においては他県の教員採用試験で出題が多い曲である。その中で初心者グループが困難としている弾き歌い歌唱共通教材から3学年「茶つみ」6学年「おぼろ月夜」を選曲し、Ⅳ. 具体的な指導点において詳細に注意点を挙げる。

また、表4では、各グループによって習得曲数が違うことを示している。これは音楽経験の差によって確実に最低習得しなければならない曲数を表している。

例年幼児保育コースにおいては、2年次保育・幼稚園実習終了後、実習報告会を開催し各学生の実習先での報告書を提出させ、実習事後指導を実施している。その報告書の項目の中に実習園でピアノを弾いたかの有無と弾いた曲名を記入させている。平成24年度～平成28年度の報告者の結果は表5の通りである。

表 4 小学校歌唱共通教材・子どもの歌弾き歌い課題曲及び習得期間

a. 児童教育コース

①平成24年、25年、26年保育表現技術BⅠ（音楽a） 通年/必修 平成27年、28年ピアノ実技Ⅰ・前期/必修

学年	2	3	3	4	4	5	5	6	6	習得 曲数
曲名	虫の声	春の小川	茶つみ	とんび	もみじ	冬景色	スキーの歌	おぼろ月夜	ふるさと	
初級	△	△	○	○	△	△	△	○	△	3
中級	△	○	○	○	○	○	△	○	○	7
上級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9

○習得曲
△準習得曲

②平成27年度、28年度ピアノ実技Ⅱ後期/選択履修

学年	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4	4	5	5	6	6	6	習得 曲数
曲名	日の丸	ひらいた ひらいた	かたむり	うみ	春がきた	虫の声	かくれんぼ	夕焼け 小焼け	ふじ山	うさぎ	さくら さくら	まきばの歌	こいのぼり	スキーの歌	ふるさと	われは 海の子	越天楽	
初級	○	△	○	○	△	○	△	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	11
中級	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	前期	△	13
上級	○	○	○	○	○	前期	○	○	○	○	○	○	○	前期	前期	○	○	14

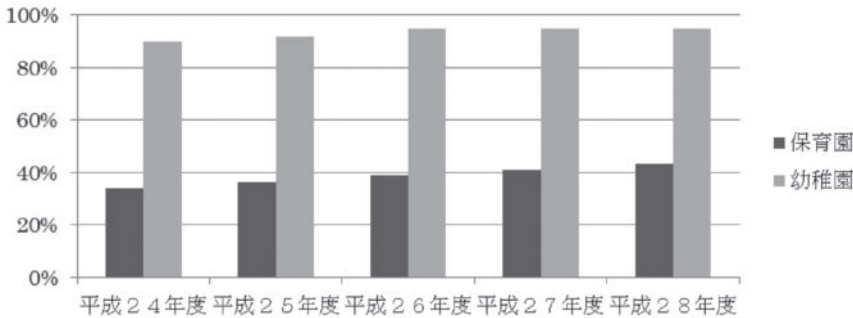
b. 幼児保育・福祉介護コース

平成24年度、平成25年度、平成26年度保育表現技術BiⅠ（音楽a） 通年/必修 平成27年度、平成28年度ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ各半期/必修

種別	生活の歌				季節の歌 夏				季節の歌 秋				習得 曲数	○習得曲 △準習得曲
曲名	おはよう の歌	おかえり の歌	さよなら の歌	おんとう の歌	たなばた さま	しゃぼん だま	うみ	おばけ なんて ないさ	大きな栗の 木の下で	とんぼの めがね	どんぐり ころころ	まつ ぼっくり		
初級	○	○	△	○	○	△	○	△	○	○	△	△	7	
中級	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	10	
上級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	

○習得曲
△準習得曲

表 5 平成24年度～平成28年度 2年生における実習園でのピアノ弾き歌いの推移



幼稚園においては、表5の推移の通り幼稚園教育要領（新・旧）第2章ねらい及び内容、感性と表現の領域に関する「表現」2内容(2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。(6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。(8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。以上の表現の項目におけるピアノの重要性を示していると考ええる。

保育園においても、保育所保育指針（**新**・**旧**）の第2章保育の内容、オ 表現 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。2、(2)ねらい及び内容オ表現(イ)内容②(**旧**) 保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。⑧(**旧**) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。(**新**) 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。④歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。3、(2)ねらい及び内容オ表現(イ)内容⑥音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。)このような項目が年々重要視されている傾向から僅かであるがピアノを弾く実習が増加してきていると考える。

表6、表7、表8は、2年次実習中に保育所・幼稚園において用いられている様々な子どもの歌の中で、多くの園で生活の歌とされている「おはようの歌（朝の歌）」・「おべんとうの歌」・「おかえりの歌」の3曲が他の子どもの歌と比較して、幼稚園は50～61%、保育園は19%～46%と高い割合で弾き歌いしていることを表している。この結果を踏まえてⅣ. 具体的な指導点においては、特に初級グループの学生が例年困難としている弾き歌い曲「おかえりの歌」「おべんとうの歌」を選曲している。

表6 おはようの歌（朝の歌）

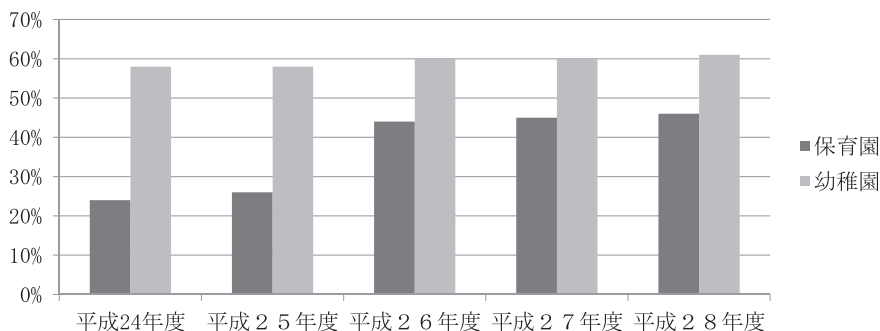


表7 おべんとうの歌

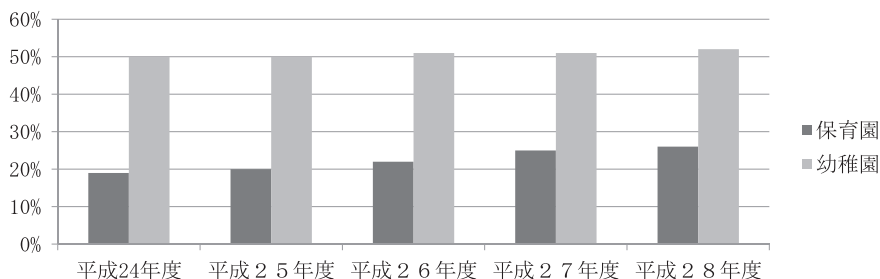
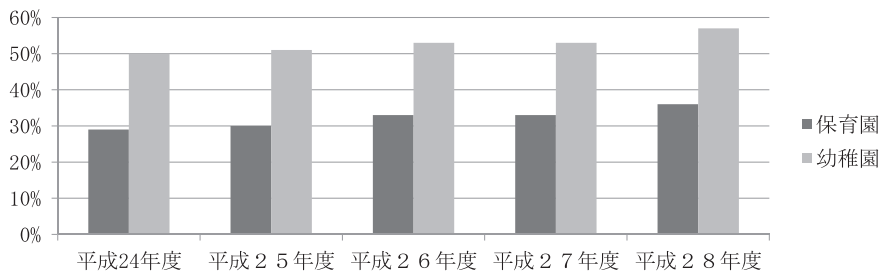


表8 おかえりの歌



次に示す表9からわかるように児童教育コースでは、習得しなければならない3曲の習得率は多い年度で30%である。これはピアノ奏法の基本であるバイエルの課題曲、音楽理論の基礎に習得時間がかかるためこのような結果になると考えられる。

幼児保育・福祉介護コースでは生活の歌の習得曲において多い年度で33%、季節の歌夏・秋においては52%の学生が習得に至っているが、準習得曲においては0%という年度が多く見受けられる。

表9 初級グループにおける小学校歌唱共通教材・子どもの歌弾き歌い課題曲習得結果人数

a 児童教育コース

	学年	3	3	4	4	5	5	6	6	○習得曲 △準習得曲
	曲名	春の小川	茶つみ	とんび	もみじ	冬景色	スキーの歌	おぼろ月夜	ふるさと	
人数	年度	△	○	○	△	△	△	○	△	
6	H24	0	1	2	0	0	0	1	2	
10	H25	0	1	3	0	0	0	2	2	
16	H26	0	3	4	0	1	0	3	2	
10	H27	0	2	3	1	0	0	1	1	
18	H28	0	2	4	1	1	0	3	2	

b 幼児保育・福祉介護コース

種別		生活の歌				季節の歌 夏				季節の歌 秋				○習得曲 △準習得曲
	曲名	おはようの歌	おかえりの歌	さよならの歌	おべんとうの歌	たなばたさま	しゃぼんだま	うみ	おばけなんてないさ	大きな栗の木の下で	とんぼのめがね	どんぐりころころ	まつぼっくり	
人数	年度	○	○	△	○	○	△	○	△	○	○	△	△	
24	H24	7	6	3	5	11	1	7	0	11	9	7	1	
17	H25	4	3	1	3	9	0	5	0	6	7	5	0	
11	H26	3	2	0	2	5	0	3	0	5	5	3	0	
9	H27	3	1	0	1	4	0	2	0	4	3	1	0	
10	H28	3	2	1	2	5	0	2	0	4	4	2	0	

6回目の授業までにバイエルで基本的なピアノ演奏技術を学び、7回目の授業時から弾き歌いの曲にも取り組むよう授業の計画（表10）をしている。

表10 弾き歌い課題曲初級グループ授業計画

授業回数	幼 児 保 育 コース		児 童 教 育 コース	
	曲 名	授 業 内 容	曲 名	授 業 内 容
7	おはよう	階名唱→歌詞をつけて歌唱 右手練習	茶摘み	階名唱→歌詞をつけて歌唱 右手練習
8		右手に歌詞をつけて練習 左手練習		右手に歌詞をつけて練習 左手練習
9		両手練習→歌詞をつけて弾き歌い練習		両手練習→歌詞をつけて弾き歌い練習
10	おべんとう	階名唱→歌詞をつけて歌唱 右手練習	おぼろ月夜	階名唱→歌詞をつけて歌唱 右手練習
11		右手に歌詞をつけて練習 左手練習		右手に歌詞をつけて練習 左手練習
12		両手練習→歌詞をつけて弾き歌い練習		両手練習→歌詞をつけて弾き歌い練習
13	おかえりの歌	階名唱→歌詞をつけて歌唱 右手練習	とんび	階名唱→歌詞をつけて歌唱 右手練習
14		右手に歌詞をつけて練習 左手練習		右手に歌詞をつけて練習 左手練習
15		両手練習→歌詞をつけて弾き歌い練習		両手練習→歌詞をつけて弾き歌い練習

弾き歌いに共通する指導事項は以下の通りである。

1) ピアノ伴奏

初級グループにとってピアノで伴奏を弾きながら歌うことは容易ではない。そのため伴奏の和音やリズムが複雑でない楽譜を選ぶが、それでもなお弾くことが困難な場合には、適宜、指導者が簡易な伴奏例を示していく。

簡易版の指使いは、Phraseごとに動きやすい指使いを用いて、指番号と旋律が一致しやすいものを配置した。ただ、指導する上で指使いは一つの例として捉え、学生の個性に応じて他の指使いを考慮することも必要になってくる。その際に自然な流れを損なわないことを前提とする。

ピアノ伴奏はいかなる場合においても歌唱よりも音量が大きくなるように留意する。

2) 歌唱

各曲の歌の旋律を何度も階名唱させ、旋律を確実に覚えてから歌詞をつけて歌う練習をする。児童教育コースは、小学校新学習指導要領、第3指導計画の作成と内容の取扱い、3内容の取扱い、2、(4)イ相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いることの項目通り移動ドの練習をさせる。

歌詞の中での鼻濁音・摩擦音などで発音する箇所を説明、方法を理解させる。

3) 曲想

各々の曲に対する詩人、作曲家の意図する想いをいかに感じ取り表現できるかが演奏にとって重要なことである。音楽経験の少ない学生達に、できる限りわかりやすく曲の特徴を説明し、理解させ、各学生が自分の心を通して演奏できるように促す。

児童教育コースは、小学校新学習指導要領、第2章音楽第1目標(1)曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする、第2各学年の目標及び内容、2内容A表現の各項目を考慮させる。

4) 教育、保育の現場における指導

・児童教育コース

平成29年3月31日に告示された小学校新学習指導要領、音楽第2章第6節音楽、第2各学年の目標及び内容、A表現(1)歌唱の活動を通して次の事項を身に付けることができるように指導する。ア、イ、ウ、第3指導計画の作成と取り扱い、2、(3)我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること。以上の項目を踏まえて、各学年の歌唱共通教材を弾き歌いするように促す。

高学年の歌唱指導においては、第3指導計画の作成と内容の取扱い、3内容の取扱い、2、(4)各学年の「A表現」(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおりに取り扱うこと。ウの変声以前から自分の声の特徴に関心をもたせるとともに、変声期の児童に対して適切に配慮することの項目を考慮し指導する。

・幼児保育コース

平成29年3月31日に告示された幼稚園新教育要領においては、第1章総則第2幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」3(10)豊かな感性と表現、第2章ねらい及び内容表現1ねらい(1)(2)(3)、2内容(1)(3)(4)(6)(8)の項目を考慮して弾き歌いし、指導する。

同じく平成29年3月31日に告示された保育所新保育指針においては、第1章総則(2)保育の目標(カ) 様々な体験を通して、豊かな感性と表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと・第2章保育の内容2、1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容(2)ねらい及び内容オ表現、3、3歳以上の保育に関するねらい及び内容(2)ねらい及び内容オ表現(ア)(イ)(ウ)の項目を考慮して弾き歌いし、指導する。

IV. 具体的な指導点

本稿では初級グループの授業において弾き歌いが困難と考えられる小学校歌唱共通教材・子どもの歌の中から4曲を選曲し、それぞれの曲の簡易版を示し指導の要点を明らかにする。

1. 児童教育コース

1) 茶つみ 簡易版

茶 つ み

文部省唱歌

The musical score is written for piano and voice. It consists of four systems of music. The piano part is in the left hand, and the vocal part is in the right hand. The key signature is one sharp (F#), and the time signature is 4/4. The lyrics are in Japanese, and the score includes fingerings and other performance markings.

System 1:
 Piano: 5 3 2 [1 2 1] 2 3 4 2 1 2 3
 Voice: な つ も り
 Piano: 1 5 4 1 2 5 5 1 2

System 2:
 Piano: 4 5 4 3 2 3 4 5 4 3 2
 Voice: ち か づ く は ち じ ゅ う こ の も や の こ ち ところ
 Piano: 5 1 2 5 1 2

System 3:
 Piano: 4 3 2 1 2 [1] 2 3 4 5 4
 Voice: ち か づ く が げ る あ れ に み える は ち つ つ み ね ば
 Piano: 4 3 5 1 2

System 4:
 Piano: 3 2 5 4 3 2 1 1 2 3 4 2
 Voice: な い か ね あ つ か ね だ け け の ち け の ち ね
 Piano: 5 1 2 5 1 2 5 1 3 4 1 2 5

□ピアノ伴奏

- ・ 4 分の 4 拍子（強・弱・中弱・弱）を手拍子させリズム感を体得させる。
- ・ 左手は右手のリズムと合わせやすい伴奏に変更した。曲想を損なわないように 3、4 拍目の 4 分音符には Staccato を用いた。
- ・ [ア] から、左手は Octave に広げる伴奏形が続くが、初心者にとって指を広げることは容易なことではなく、指先への力の調節が上手く出来ないため音が弱くなったり Accent がつきやすい。このことを解決するためには、指尖球と呼ばれる部分を手首や指の付け根を支点として、垂直な動きで打鍵することを意識させる。

- ・[イ] は5→2→3の指使いも考えられるが、左手4拍目のレの音を2の指に固定することにより、[ア]と同様の指使いとなるために動きが安定しやすい。黒鍵を1の指で弾くために、手の位置を黒鍵に近い鍵盤の奥へと移動させる。
- ・[ウ]の右手の指使いは1→2と指を返し、次の音を瞬間的に1の指で弾くため、この動きが滑らかになるように何度も練習させる。
- ・[エ]の右手の指使いは、12小節目で2の指で弾いたレの音を13小節目では1の指で弾き始めるので、4分休符の間に移動ができるように動きを理解させる。
- ・[オ]の右手の指使いは、17小節目の4拍目のミの音と18小節目の1拍目のレの音を同じ1の指で弾くので、音が切れないように最初のミの音を鋭く離鍵させず、音価いっぱいまで伸ばして隣の音のレに移動させる。この時、1の指は手首関節と直接結びついているので、手首の動きが1の指の動きを助け、ミの音を離鍵する時には手首を垂直に少し持ち上げレを打鍵する。

□歌唱

- ・新学習指導要領、第3学年及び第4学年 2内容A表現(1)アイウ(ア)(イ)(ウ)の項目を考慮し、歌唱する。
- ・詩に用いられている「八十八夜」「あかねだすき」「すげのかさ」「ひより」などを説明し理解させる。
- ・㊦、㊧、㊨は摩擦音に注意して歌唱する。
- ・はちじゅうはちやの「は」は、「あ」と聴こえないように息をより多く送らなければならない。息を送る練習として、大げさに息の音を出し笑い声のようにハハハハハと何度もやってみる。同様に、にほんの「ほ」が「お」と聴こえないようにホホホホホと、ひよりの「ひ」も「い」とならないよう、ヒヒヒヒヒと大げさに息の音を出して言う練習をする。
- ・やまの「や」の前に一瞬「い」を入れるときれいに発音される。
- ・わかばの「わ」は、唇を一瞬すばめて「う」の口のかたちを作り、そこから「わ」と発音するとはっきりと聴こえる。
- ・すげの「げ」、しげるの「げ」、このごろの「ご」、の前に「ん」を入れて鼻濁音にする。

□曲想

- ・日本の5月に見られる伝統的な茶摘みの光景を心の中に描き、自然の清々しい爽やかさと新茶の甘い香りをイメージしてのびやかに表現する。
- ・この曲は実際の茶摘みの際の茶葉を摘む動きに似せたと言われている二人一組の手遊び歌として親しまれている曲である。4拍子のテンポを保ってcon moto giocosoで弾き歌

いをする。

□小学校における指導

- ・茶摘みを想像しながら、リズムカルに歌えるようにする。
- ・2拍目のAuftakt（弱起）に注意してリズム打ちや曲想で述べた手遊びをし、躍動的なリズムを捉えさせる。

2) おぼろ月夜 簡易版

お ぼ ろ 月 夜 高野辰之 作詞
岡野貞一 作曲

1. な の ば た け い も り う れ み わ
た か の や ま の か た ど み か ど も は
か ぜ の く ね も か ね の お と も ゆ う
づ き か り て に お ぼ ろ あ わ 2. 3 と よ

□ピアノ伴奏

- ・最初に、この曲を構成している4分の3拍子（強・弱・弱）を手拍子させリズム感を体得させ、Auftakt（弱起）、Repeat markについて説明し理解させる。
- ・伴奏は固定の指使いで弾けるPositionを配置した。
- ・前奏は13～16小節を使用する。

- ・この曲はD-Durで黒鍵を使用するために、歌詞やPhraseがLegatoになる指使いを配置した。
- ・[カ] は同じ小節内で右手のラの音を1から4の指へ移動、[キ] は3の指を隣の音へ移動させる。双方とも休符がないため準備時間は取れないが、歌の流れの中でBreathを入れ滑らかな指の移動を練習させる。
- ・[ク]、[ケ]、[コ]、[サ] は右手に指くぐり、指の返しがある。[ケ] と [サ] は黒鍵からの指くぐりなので、シャープの後に1の指で弾くソの音を黒鍵に近い鍵盤の奥で弾くと滑らかな動きになる。

□歌唱

- ・新学習指導要領、第5学年及び第6学年、1目標A表現(1)ア歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことの項目を考慮させる。
- ・最初に、詩が文語体であり脚韻を踏んで書かれているために内容を説明し理解させる。
- ・歌詞の流れを途切れさせないように、Breathは指示通りの場所です。
- ・歌詞は、弾き歌いのために覚える。
- ・なの[は]なの「は」、やまの[は]の「は」、[は]るかぜの「は」は、「あ」と聞こえないよう、いり[ひ]の「ひ」、[ひ]との「ひ」も「い」と聞こえないよう、[ふ]かしの「ふ」、そよ[ふ]くの「ふ」は「う」と聞こえないよう、[ほ]かげの「ほ」は「お」と聞こえないようそれぞれ息を多く送るよう注意して歌唱する。それぞれハハハハハ、ヒヒヒヒヒ、フフフフフ、ホホホホホと何度も息の音が聞こえるようになるまで発音の練習をする。
- ・やまの「や」の前には一瞬「い」を入れて確実に発音をする。
- ・(す)、(し)、(そ)、(さ)の摩擦音に注意して歌唱する。
- ・ほかげの「げ」の前に「ん」を入れて鼻濁音として発音する。

□曲想

- ・新学習指導要領、第5学年及び第6学年、1目標A表現(イ)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するの項目を考慮させる。
- ・叙情歌として長らく歌い継がれている理由は、心の中に静かで幻想的な菜の花畑が広がる日本の豊かな季節感が溢れているからであろう。この心を大切にdolce gratosoで表現する。

□小学校における指導

- ・新学習指導要領に特に付加されている「我が国や郷土の音楽に愛着がもてるように」の項目を考慮し、児童達が歌詞を理解し、情景を想像しながら気持ちを込めて歌えるよう

にする。

- ・各Phraseごとに自然なcrescendo、decrescendoをつけるようにする。
- ・6年生の歌唱共通教材であるこの曲においては、前にも述べているが変声期にかかっている男子児童に高音部は無理をさせないよう歌唱指導をする。

1. 幼児保育コース

1) おかえりのうた 簡易版

おかえりのうた

天野 雄 作詞
一宮蓮子 作曲

☐ ピアノ伴奏

- ・前奏 [A] 1～2小節は3小節目へ迅速に入れるよう、同じPositionで弾ける位置に変更した。

- ・ [B] 1 ～ 6 小節はChord nameのBass音を用いた。また、[C] 7 ～ 10小節は初心者にとって困難な伴奏形を用いず単音とした。
- ・ 右手旋律に付点のリズムが多いため、右手のみで数回練習をしてから両手練習をさせる。
- ・ [シ]、[ス]、[セ]、[ソ] の右手の指使いは1 → 2 → 1 と指を返す。[タ] はC-Durの音階で使用される指くぐりがある。これらを滑らかに弾くためには、まず指使いを定着させるために右手のみで練習させる。続いて1の指を用いる指かえや、指くぐりの時は、手首を支点として掌を回転させ、打鍵しやすいPositionに指を運ぶ。
- ・ 左手は、C-DurのPositionでド(5)、ファ(2)、ソ(1)の固定の指使いを配置した。

□歌唱

- ・ ピアノ伴奏でも述べたが全体に付点のリズムが多いため、そのリズム感を崩さないよう marcatoで歌唱する。
- ・ 3 ・ 5 小節目は1拍目と3拍目を言い直すようにして歌うと歌詞がより明確に聴こえるだろう。
- ・ すみま(し)た、できま(し)た、の(し)は無声音にする。
- ・ 「せんせい」の「い」は強調しないように「え」に近く発音する。
- ・ ㊟、㊤、㊤、㊤は、母音のみしか聴こえず歌詞が不明瞭となりやすいので、唇、舌などをを使う摩擦音を意識して歌う。
- ・ おりがみの「が」を歌う際には、鼻腔に音を響かせる鼻濁音で柔らかく発音し、「が」の前に一瞬「ん」を入れて歌うと濁点がきつくなり滑らかに歌える。

□曲想

- ・ 教育、保育の現場において、一日の終わりに使用される曲で、今日も楽しく学びそして遊び、明日も会いましょうの気持ちを込めて con allegrezzaで弾き歌いをする。

□教育・保育の現場における指導

- ・ 弾き歌いしながら一人ひとりの表情、様子を見ながら明日の教育、保育に繋げるために、特に明るさを強調して弾き歌いする。
- ・ 幼児・子ども達に大声で歌わせないように心がけ、幼児・子ども達の歌声をよく聞き、大きく弾かないように注意する。

2) おべんとう

簡易版

おべんとう

天野 蝶 作詞
一宮道子 作曲

□ピアノ伴奏

- ・伴奏 [D] はChord nameのBass音を用いて単音にした。
- ・[E] 前奏の右手3～4小節は、歌が始まる直前の旋律であるため伴奏に遅れが生じることのないようTempoに注意する。
- ・[F] 右手と歌の旋律の付点8分音符と16分音符のリズムパターンと、[G] 8分音符と8分音符のリズムパターンの違いを正確に弾けるように右手のみで何回も練習させる。
- ・[チ]、[ツ]、[テ]、[ト]、[ナ]、[ニ] は指を広げて弾く箇所であるが、自然に指を置

いた場合、[チ] は1→3になりやすいため、2小節目の音への移動を考慮して1→2と配置した。[ツ]～[ニ] においてもLegatoで弾ける指使いを配置した。

- ・[ヌ] は8小節目からの旋律の動きで右手のラの音を3の指で弾くことも可能ではあるが、Phraseの途中で指を変えない指使いを配置し、その際に、8小節目の8分休符の間に、手首を高く上げ過ぎず指を寄せて隣の音へ移動させる動きが必要となるため、これを何度も練習する。
- ・左手は、C-DurのPositionでド(5)、ファ(2)、ソ(1)の固定の指使いを配置した。

□歌唱

- ・歌唱の旋律においても、ピアノ伴奏の右手の旋律と共に注意したいのは、[F] と [G] のリズムパターンの違いである。1拍目の付点のリズムと2拍目の8分音符のリズムを確実に歌い分けなければならない。まずは手拍子をしながら歌詞のリズムに合わせ数回練習させ、その後旋律をつけて歌わせると容易に付点のリズムと歌詞が一致し歌うことができる。
- ・㊦、㊧、㊨は特に摩擦音が出るように注意して歌う。
- ・なりま(し)たの(し)は無声音にする。
- ・よくの、「よ」の前に一瞬「い」を入れるとしっかりと「よ」の発音が聴こえるだろう。

□曲想

- ・幼児・子ども達の早く食べたい気持ちを踏まえ、今日のお弁当は何が入っているかワクワクしている様子を2拍子の弾んだリズムにのって、con brioに表現する。

□教育・保育の現場における指導

- ・保育者は、幼児・子ども達に2拍子（強、弱）の手拍子をさせながら焦る気持ちを落ち着かせ、興奮を抑えるために大き過ぎない声で歌わせる。
- ・曲想がcon brioであっても、幼児・子ども達の歌声よりピアノ伴奏が大きくなりすぎないように注意して弾き歌いをする。

V. おわりに

経済的・社会的格差の拡大という昨今の我が国の情勢の反映と思われるが、親の子どもへの教育ということも変化している。特に、ピアノやヴァイオリンを習わせるという家庭が減り、就学前の幼児達が通う音楽教室も経営不振となり、経営内容を転換している例もある。また小学校、中学校においての音楽の時間数が減少傾向にあり、高等学校においては、音楽が選択科目となり履修していない生徒が多くなっている。いわば、小学校・中学校・高等学校において音楽の基礎を学んでくることが皆無に等しい状況となってきた。その

ような状況下にあつては、今後も入学者のピアノ演奏のレベルが飛躍的に上がるということは、極めて考えにくい。特に、増加傾向にあるピアノ演奏の初心者の多くの学生を半期や通年の履修期間だけで、教育、保育現場における演奏レベルにまで到達させるというのは大変困難なことである。このような状況を鑑みると、今後は履修期間を半期或いは1年間延長するなどの対策が必要ではないだろうか。

ピアノ演奏技術が未熟ということで採用試験が不合格になる事態や、教育、保育の現場において通用しないということになれば学生にとって極めて大きな不利益にも繋がる。カリキュラムの見直しの検討の他、教員は授業時間内において、今回考察したことなどを取り入れた指導の工夫や、授業後や履修期間終了後に、各学生が個人で練習を進めていけるだけの基礎的な音楽理論と様々な練習方法を指導していかななくてはならないだろう。

音楽の演奏（弾き歌いなどを含む）において、音楽理論を基礎に、テクニックを忍耐強く練習し続ける事はあくまでも技術的なことである。様々な楽曲（歌唱共通教材・子どもの歌などを含む）の作曲家・作詞家の意図する曲想・詩をどれだけ心に感じ、くみ取り、それを教育、保育の現場において児童・幼児・子どもに、感性豊かに表現し伝えるかが一番大切なのではないだろうか。また、意欲ある学生が何時でも練習できる環境を整備・確保することについては、小学校・幼稚園教諭そして保育士の養成コースを持つ本学としても早急に検討し、整備することが強く求められることであると思慮するところである。

【執筆者】

穴澤 彩佳 II、III.1、2-2)、3)、4)、IV.歌唱、曲想、小学校における指導
松田由理子 I、V、資料作成・分析（資料1～5、表1～10）
寺田 有希 III.2-1)、IV.ピアノ伴奏、簡易楽譜（4曲）作成

【参考文献・参考資料】

文部科学省 厚生労働省（2017） 幼稚園教育要領 保育所保育指針 チャイルド本社
ISBN978-4-8054-0258-0
一般財団法人総合初等教育研究所（2017） 新学習指導要領改訂の要点 文溪堂
ISBN-978-4-7999-0236-3
宮崎新悟・志民一成（2017） 新学習指導要領の展開 明治図書 ISBN-978-4-18-328318-4
初等科音楽教育研究会（2009） 初等科音楽教育法 音楽之友社 ISBN 978-4276-82008-1
五十嵐忠（1987） こどものうた230：第1集 行事と生活のうた 佐藤玲・納原善雄・室星敦郎
（共編） 圭文社 書籍コード3037-0340-2010
全音楽譜出版社出版部編（1983） 標準バイエルピアノ教則本・併用曲付
株式会社全音楽譜出版社 ISBN978-4-11-101010-3
全音楽譜出版社出版部編 全訳ハノンピアノ教本 株式会社全音楽譜出版社
ISBN4-11-104010-1

國學院大學北海道短期大学部紀要第35卷

目黒惇編集（1977） 新音楽辞典 音楽之友社 ISBN4-276-00013-0

U.ミヒェルス（1981） 図解音楽事典 角倉一朗（日本版監修者） 白水社
ISBN4-560-03686-1